

栃木県の観光地における二次交通の実態に関する基礎的研究

宇都宮大学 学生会員 ○小島 直大
宇都宮大学大学院 学生会員 井上 恭介
宇都宮大学大学院 正会員 長田 哲平
宇都宮大学大学院 正会員 森本 章倫

1. はじめに

我が国は、極めて重要な成長分野に観光を位置づけ、世界の観光需要を取り込みことで地域活性化などを期待する訪日観光の振興や、広く観光客を呼び込み地域の経済の活性化などを目指すために国内旅行振興も進めてきている。平成18年に観光立国推進基本法を制定し、平成20年に国土交通省内に観光庁が発足させるなど、観光に対する取り組みが活発化している。これを受けて、各自治体においても観光立国実現を目指し、各種政策を実施している。世界遺産の「日光の社寺」をはじめ鬼怒川、那須といった観光地を有する栃木県は、栃木県重点戦略「新とちぎ元気プラン」¹⁾の中の重点戦略プロジェクトの一つとして「観光立国とちぎづくりプロジェクト」を進めている。

ここで、観光地までの交通手段に着目すると、栃木県の観光地においては、観光地において観光スポットを周遊するのに便利であることから自家用車を利用する観光客が多い。しかし、その一方で、観光地まで公共交通を利用して来た観光客が、観光地において、どのような交通手段を用いて観光スポットを移動しているかの実態は不明な点が多い。

そこで、本研究では、栃木県の観光地に来た観光客がどのような交通手段を使って観光スポットまでアクセスしているのか、アンケート調査から実態を明らかにすることを目的とする。

2. アンケート調査の概要

(1) 対象とした交通行動

来訪者が居住地から観光地までアクセスするのに用いる交通機関は、①私的交通機関（自家用車）、②その他公共交通機関の二つに大別される。公共交通機関を利用した観光客は、観光地の鉄道駅までは

鉄道を使い、鉄道駅から観光地における次の目的地（観光スポット、宿泊施設）への交通手段として、徒歩、自転車（レンタサイクル）、タクシー、レンタカー、バスなどがある。なお、本研究では、これらの観光地の鉄道駅から次の目的地までの交通機関を「二次交通」と定義した。

(2) アンケート調査の概要

本研究では、二次交通の実態を明らかにするために、世界遺産「日光の社寺」を有する日光、そして日光に隣接する温泉地である鬼怒川を調査地とした。またアンケート調査は、観光地の鉄道駅において調査協力が得られた観光客を対象とし、調査員が対面アンケートで取得した。いずれにおいても観光客が多く見込まれる秋の3連休に実施した。

日光は、平成25年9月22日（日）に東武日光駅で実施し、鬼怒川は、平成25年10月13日（日）に鬼怒川温泉駅で実施した。

アンケート調査票では、回答者に個人属性、来訪時の団体構成および交通手段、そして利用交通手段の選択理由を調査した。その結果、日光では200サンプル、鬼怒川では246サンプルを取得した。

3. アンケート調査からみた二次交通の実態

(1) 日光と鬼怒川における来訪者の傾向

調査の結果、日光と鬼怒川は関東に位置する観光地であることから、関東の中でも1都3県（東京、千葉、埼玉、神奈川）を発地とする観光客が多い。特に、鬼怒川温泉は、東京より民間鉄道事業者が直通列車を運行していることから、東京からの観光客も多い結果となった。また、被験者を年代別にみると、20代～40代と、比較的若い世代で約7割を占めている。

キーワード: 観光、二次交通

連絡先〒321-8585 栃木県宇都宮市陽東7-1-2 TEL. 028-689-6224 E-mail: plan@cc.utsunomiya-u.ac.jp

(2) 二次交通の利用傾向

鉄道駅を利用した観光客の二次交通は、双方においてバスが主であり、次いで徒歩となった。また、どちらの観光地においてもいえる特徴的な傾向として、路線バスのみならず送迎バスを運行しているため『バス』の利用も多い。なお、鬼怒川温泉駅で二次交通としてマイカーがカウントされたのは、自家用車利用者が駅前ロータリー内にある無料の足湯を利用したためである。

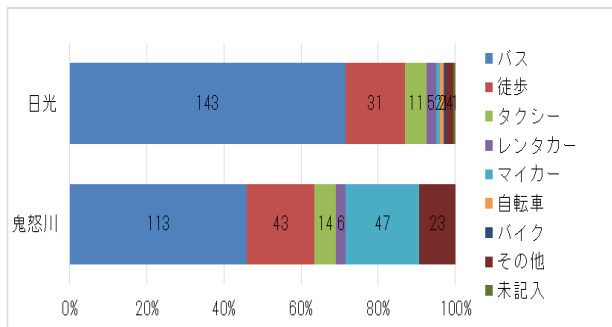
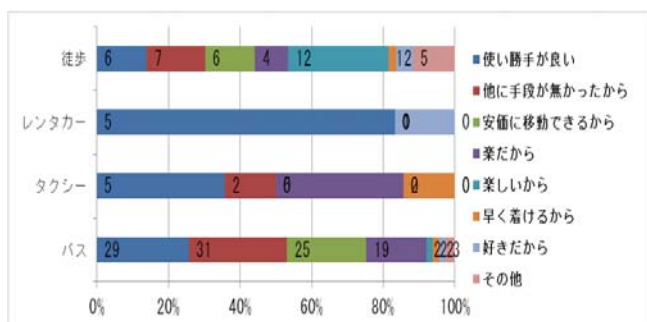
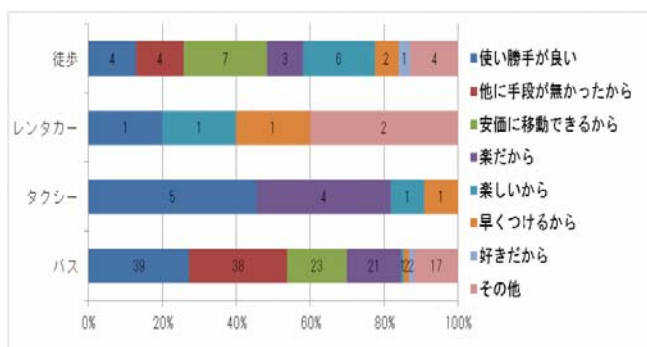


図-1 二次交通手段の傾向

(3) 二次交通手段の選択理由

交通手段別の選択理由を見ると、バスの選択理由として、『使い勝手が良い』、『ほかに手段がなかった』が日光で約6割弱、鬼怒川で約5割を占めた。そして、次に『安価に移動できるから』という回答が多い。一方で、徒歩で目的地へ向かう方は、『楽しいから』を選択理由に挙げた割合が多い。



(上：日光，下：鬼怒川)

図-2 二次交通手段×選択理由

(4) 他の交通手段を選択しない理由

現在の交通手段以外を選択しなかった理由を尋ねたところ、バス利用者は、タクシーなどの他の交通手段が『高価だから』といった理由が最も多い。レンタカーやタクシー以外を選択しなかったのは『時間が読めない』や『使い勝手が悪い』という答えた人が多い。つまり、二次交通としてのバスは、廉価であることで選択される一方で、時間の不確定さや利便性が悪いと感じている利用客が多いといえる。

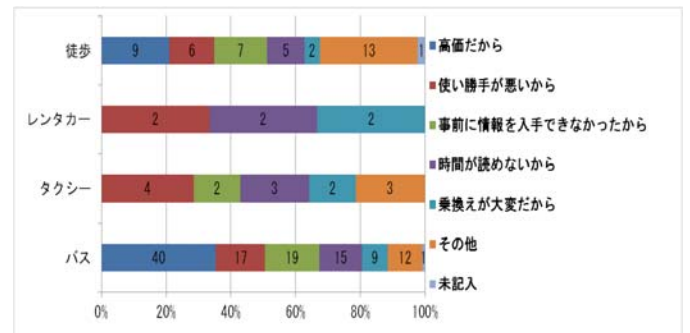


図-3 二次交通手段×非利用の理由(鬼怒川)

(5) 二次交通の利用意思の決定時期

駅からの交通手段の決定時期は、バスが最も早く、次いでレンタカー、タクシー、徒歩の順になった。バスは路線状況等を事前に調べている場合が多く、徒歩やタクシーはその場で決める割合が多い。

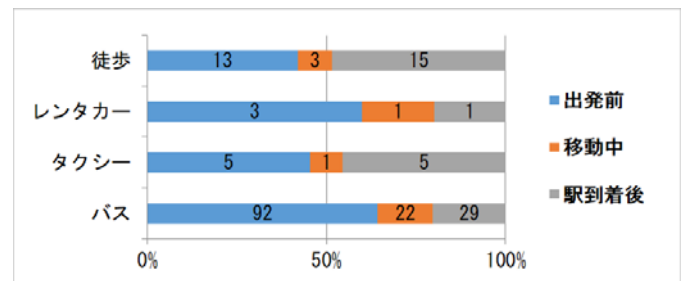


図-4 二次交通の利用意思決定時期(日光)

4. おわりに

栃木県の観光地(日光、鬼怒川温泉)においては、バスが最も利用されている二次交通であることが分かった。バス以外の二次交通の認知度は低く、到着した駅で円滑な選択行動が行われていない可能性がある。今後は、バス以外の二次交通が利用しやすいような情報提供を考えるなど、二次交通利用を促進し、地域活性化のための一助としたいと考える。

参考文献

- 1) 栃木県重点戦略「新とちぎ元気プラン」(H23~H27年)

